

第68次 印旛地区教育研究集会
総合的な学習の時間 提案資料



研究主題

様々な事象に「心を寄せる」総合的な学習の時間の在り方



四街道市立吉岡小学校

教諭 藪 圭士朗

教諭 齋藤 幸乃

1 研究主題

様々な事象に「心を寄せる」総合的な学習の時間の在り方

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

平成32年度より全面実施となる新学習指導要領の内容・方針が明らかとなった。改訂のポイントとして、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって学び続けるようにするための「主体的・対話的で深い学び」の実現が挙げられており、総合的な学習の時間のさらなる充実が求められている。その一方、外国語教育の充実を図るため、移行期間において、総合的な学習の時間の時数が割かれているということもある。

このことを受けて、主体的に課題解決と向き合い、様々な対象と深く関わり合いながら探究活動に取り組んでいくことが、より一層重要になると考えた。

(2) 地域・学校の実態から

本校は、昨年度創立25周年を迎え、今年度26年目である。四街道市の最南端に位置し、千葉市千城台団地に隣接している。校舎の北側には山林が広がり、南側から西側にかけては大規模な宅地開発により、新興住宅地が形成されている。「道路を挟んだ反対側は千葉市」というように、四街道市民だが、生活圏は千葉市千城台地区を中心とする家庭が多い。また、毎年本校の卒業生の何割かは隣接する千葉市の公立中学校へと進学している。

保護者・地域住民の教育への関心は全体的に高く、学校行事や地区行事への参加数・参加率ともに高い。生活科や総合的な学習の時間の一環で、地域住民や社会教育団体に、協力していただく時もある。

また、本校を含む旭中学校区の4小学校は、四街道市教育委員会より、英語特区に指定されている。そのため、年間35時間の外国語活動に取り組んでいる。その代わり、総合的な学習の時間が年間55時間の実施予定となっている。

(3) 児童の実態から

研究を行うにあたって、本校教職員や地域の方・保護者から意見をいただき、児童の実態について考察してみた。

本校の児童は、明るく人懐っこい児童が多いことが大きな特徴の一つである。また、休み時間には、積極的に外遊びする姿も多く見られたり、学校行事等にも一生懸命に取り組んだりしている。このことから、積極性やチャレンジ精神が見られる。しかし、吉岡っ子の課題も当然ある。以下に示す点が、現状の大きな課題と言える。

- ① 自分中心に物事を考え、相手の気持ちを押し量ることのない言動により、友達関係のトラブルに発展することが多い。
- ② 教師の指示がなくても「自分達で考え、行動していく」という主体的に物事に取り組む姿勢に乏しい。
- ③ 学習面・生活面ともに、改善に向け継続して努力することが苦手である。途中であきらめたり、飽きてしまったりする様子が見られる。
- ④ 保護者や地域の方に守られて育っている子どもが多く、年長者に対して、友達のような言葉遣い・態度で対応する。

(4) 「心を寄せる力」とは

以上のような児童の実態から、今の吉岡っ子に足りていない力・育てたい力を「学び続ける力」・「関わる力」・「表す力」という3つにまとめた。

育てたい力		具体的な資質
学び続ける力	課題の設定	体験活動や学習活動の中から課題を設定する。
	情報の収集	目的に合った情報を、様々なツールを使って集める。
	整理・分析	多様な情報の中から特徴を見つけたり、比較したりして考える。
	粘り強さ	途中であきらめず、学習に粘り強く取り組む。
関わる力	協働性	友達と話し合ったり、協力したりして問題を解決する。
	他者理解	相手の気持ちを考えたり、自分と異なる考えを認めたりできる。
	地域との関わり	地域の人・もの・ことに関心を持ち、つながりをもつ。
表す力	話す表現	話し合いの場で、自らの考えをわかりやすく述べる。
	書く表現	調べたことや自分の考えをわかりやすく書く。
	まとめ・表現	自分の考えや意見を工夫してまとめ、相手に伝える。

そして、その3つの力を総合して「心を寄せる力」と設定した。この「心を寄せる」とは、「思いをかける・関心を持つ・熱中する・傾倒する」等の意味をもつ。特に、「傾倒する」というのは、「ある物事に心を引かれ夢中になること」「ある人を心から尊敬し、慕うこと」という意味である。主題に示したように、『人』・『もの』・『こと』などの様々な事象に対して、「あることに関心を持つ」「ものごとに熱中する」「人を心から尊敬する」などのような資質を身に付けさせたいと考え、「心を寄せる力」と名付けた。

「総合的な学習の時間」を通して、吉岡の児童の「心を寄せる力」を育てたいと考え、研究に取り組むようにした。

心を寄せる力 = 学び続ける力 ・ 関わる力 ・ 表す力

3 研究の方向性

以上の主題設定の理由から、全面実施が目前に迫ってきている新学習指導要領の内容をしっかりと視野に入れつつ、その上で、吉岡っ子の課題をクリア出来るような「総合的な学習の時間」を展開していくこととした。

そこで、まず始めから『実践』に入るのではなく、本校における「総合的な学習の時間」の在り方や指導體制（『基盤』）の部分を見直す所からスタートした。新学習指導要領解説や研修会で学んだことを頼りに、まずは本校における「総合的な学習の時間」の『基盤』をしっかりとつくり、それを基にして、様々な学年・テーマで『実践』を行っていくこととした。それによって、担任が替わったり、学年が上がったりしても、吉岡小の「総合的な学習の時間」という軸がぶれないようになると考えた。

そして、「総合的な学習の時間」を通して、吉岡小児童に、「心を寄せる力」を身に付けさせたいと考え、研究に取り組んだ。

4 研究仮説

校内の指導體制の『基盤』を整え、「考えるための技法」を活用した探究的・協働的な活動に取り組ませれば、児童がお互いに高め合い、心を寄せる力が育つだろう。

5 手立て

手立て①「全体計画」の改定

新学習指導要領を見据え、「総合的な学習の時間」を充実したものにする前提として、校内の「基盤」から整備することが必要であると感じた。そこで、まずは学校の「全体計画」を見直し、改定に取りかかった。新学習指導要領解説や第5部会総合的な学習の時間研修会での講義を参考にさせていただいたところ、今回の改訂で「全体計画」を全て書き換える必要はないということがわかった。大きな変更点と言えば、「目標を実現するにふさわしい探究課題」「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の2点である。そのため、今の児童・学校・保護者・地域の実態を改めて見つめ直し、新たな「探究課題」や「育てたい資質・能力」を考えることができた。

→資料編 資料①「旧」全体計画 ②「新」全体計画

手立て②「年間指導計画」（単元配列表）の作成

「基盤」を整える上で、次に取り組んだことが「年間指導計画」（単元配列表）の作成である。新学習指導要領の中では、「総合的な学習の時間と各教科等の単元を関連

付けた年間指導計画（例）」として紹介されている。また、生活科・総合的な学習の時間の実践研究で有名な國學院大學の田村学教授も、この「単元配列表」を推奨している。例えば、学年の全教育活動を視野に入れることができるように、総合的な学習の時間における単元と、各教科等の単元を配置することに加え、相互の関連を線で結べば、1年間の流れの中で各教科等との関連を見通した年間指導計画ができる。

「各教科等で育成される資質・能力がどのようにつながり、関連付いていくのかを想定して配列を行うことで『活用・発揮』することが実現しやすくなる。」という田村教授の言葉通り、この「単元配列表」を作成することで、他教科・領域を横断して、総合的に学習することができる考えた。→資料編 資料③「単元配列表」第6学年 資料④「単元配列表」第4学年

手立て③「思考ツール」の活用（「考えるための技法」の習得）

これまでの実践から、総合的な学習の時間の探究的な学習サイクルの中でも、「課題の設定」「整理・分析」の場面で、戸惑う児童が多いことが予想される。それは、自らの課題を設定する際、テーマに関する知識が少なかったり、課題に対して調べたことを分析する際には、共通点や相違点を上手く整理できなかつたりするからだと考えられる。そのため、その2つの学習過程において、「考えるための技法」（思考スキル）を習得し、活動ができるように、「思考ツール」を活用することにした。それによって、「思考の可視化」ができ、抽象的な情報を扱うことが苦手な児童も、思考がしやすくなるだろうと考えた。また、「思考を可視化」することで、協働的・対話的な学習を活発にすることにもつながるとも考えた。

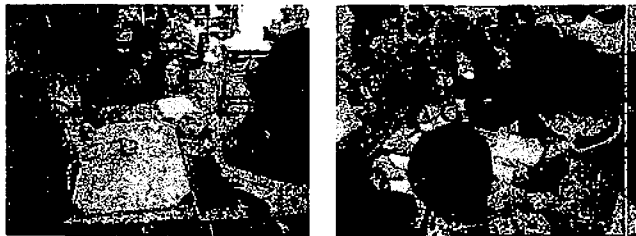
また、「考えるための技法」を取り入れる際に注意することは、児童の発達段階や実態をしっかりと掴んで、「思考ツール」を選択することである。もう1点は、「ツールを活用することが目的ではない」ということを理解することである。あくまで「ツール（道具）」であるため、しっかりとした「ねらい」を達成するための一助と捉えて、活用することにした。


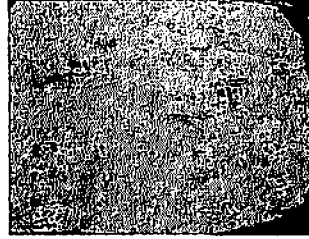
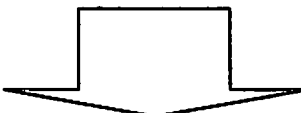


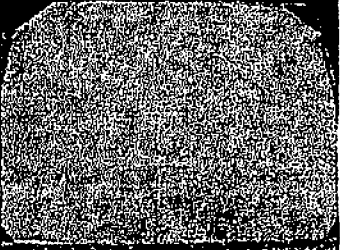
手立て④「教育資源」との協働

新指導要領解説に「総合的な学習の時間を効果的に実践するには、保護者や地域の人、専門家などの多様な人々の協力、社会教育施設や社会教育団体等の施設・設備など、様々な教育資源を活用することが大切である。」とあるように、やはり学校だけで行う実践には限界がある。そこで、積極的に同じ地域の人材や社会教育施設等に連携・協力を求めるようにした。単に「力を貸してもらおう」のではなく、「共に同じ地域の子ども達を育てましょう」ということを『学習協力者』としてお願いしている。

また、学校外の多様な人々の協力を得て学習活動を充実させるには、綿密な打合わせを行うことが不可欠であるため、適切な時間や機会の確保に気を付けた。

6 指導の実際

第6学年「ありがとう プロジェクト」		全20時間扱い+道徳②・国語①・家庭②										
<p>[単元設定の理由]</p> <p>卒業を前に、今までの小学校生活を振り返り、お世話になった人・支えてくれた人達の事を再認識し、その人達への「感謝の気持ち」を表現することで、「心を寄せる力」を育てたい。</p> <p>[目標]</p> <p>〈学び続ける力〉「感謝」について、自らの課題を設定し、必要な情報を集め、互いの考えを整理・分析する活動に粘り強く取り組み、課題を解決することができる。</p> <p>〈関わる力〉 課題解決のために、他者と協働的に活動することができる。</p> <p>〈表す力〉 課題について、意見を述べるなどして、適切に自分の考えを表現できる。</p>												
単元	過程	学習内容										
第 一 次 の 設 定	課 題 の 設 定	<p>今までの学校生活を振り返り、いつ、どのような人に、どんなことでお世話になってきただろうか。</p> <p>○「考えるための技法」『関連付ける』のために、 「思考ツール」『イメージマップ』の活用</p>  <p>道徳「支え合いや助け合いに感謝して」との連携</p> <p>「お世話になった人」</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>先生方</td> <td>在校生</td> <td>地域の人</td> <td>ホテルの人</td> <td>太鼓指導の方</td> </tr> <tr> <td>家族</td> <td>給食調理員</td> <td>カメラマンさん</td> <td>米作りの方</td> <td>110番の家</td> </tr> </table>	先生方	在校生	地域の人	ホテルの人	太鼓指導の方	家族	給食調理員	カメラマンさん	米作りの方	110番の家
		先生方	在校生	地域の人	ホテルの人	太鼓指導の方						
家族	給食調理員	カメラマンさん	米作りの方	110番の家								
P A R T I	情 報 の 収 集	<p>お世話になった人達が、望んでいること・喜ぶことは何だろうか。</p> <p>○グループごとに、必要な情報を収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への聞き取り調査 ・地域の方へのインタビュー ・在校生へのアンケート ・インターネットを活用しての調べ学習 <p>国語科「アンケートのとり方」との連携</p>										

整理・分析	収集した情報から、ということがわかったらどうか。																							
	○「考えるための技法」『比較・分類する』のために、 「思考ツール」『K法』を活用しての情報の共有・整理・分析 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> 「ホワイトボード」 「付箋紙」が効果的。 </div> </div>																							
まとめ・表現	グループごとにまとめた情報をみんなに発表しよう。																							
	○「整理・分析」でまとめた内容を、学級全体で発表→[情報の共有] <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  「望んでいること」「喜ぶこと」→『方法』 </div> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">色紙</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">ブックカバー</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">スピーチ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">挨拶運動</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">演奏会</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">メッセージカード</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">清掃活動</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">劇・ダンス</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">ばちケース制作</div> </div>																							
第二次課題の設定	「感謝の気持ち」を表現する『相手』を選択し、相応しい『方法』を考えて、それぞれのプロジェクトを立ち上げよう。																							
	○第1次で考えた『相手』ごとにグループを組み、その『相手』に相応しい『方法』を考えるため、「思考ツールの」『座標軸』を活用して決定。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;">    </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">先生方</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ブックカバー</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">給食調理員</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">色紙</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">家族</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">手紙</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">太鼓指導の方</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ばちケース</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域の人</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">メッセージカード</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">在校生</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">挨拶運動・ダンス</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">カメラマンさん</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">メッセージカード</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学校</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">清掃活動</td> </tr> </table>	先生方	→	ブックカバー	給食調理員	→	色紙	家族	→	手紙	太鼓指導の方	→	ばちケース	地域の人	→	メッセージカード	在校生	→	挨拶運動・ダンス	カメラマンさん	→	メッセージカード	学校	→
先生方	→	ブックカバー	給食調理員	→	色紙																			
家族	→	手紙	太鼓指導の方	→	ばちケース																			
地域の人	→	メッセージカード	在校生	→	挨拶運動・ダンス																			
カメラマンさん	→	メッセージカード	学校	→	清掃活動																			
P A R T II																								

第二次
情報収集
あり
が
と
う
プ
ロ
ジ
ェ
ク
ト
ま
と
め
・
表
現

P
A
R
T
I
I

「ありがとうプロジェクト」を実現するためには、どうすればよいか。

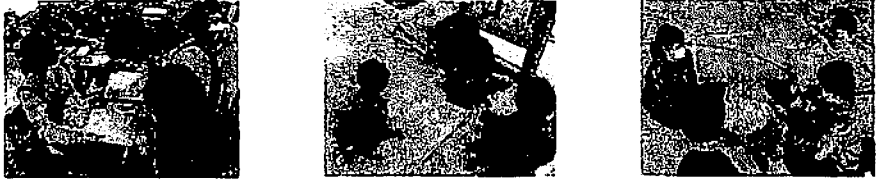
○グループごとに、「プロジェクト」を実現するために必要な情報を収集する。

「ありがとうプロジェクト」の活動計画を立てよう。

○グループごとに、『方法』についての詳細な内容を話し合い、決定する。
 ・「いつ」「どこで」「どのように（何を）」表現するか、グループごとに決定。
 ・役割分担等、見通しをもって活動計画を考える。

「ありがとうプロジェクト」を実行し、今までお世話になった人達への感謝の気持ちを表現しよう。

○グループごとに、プロジェクト実行に向けての企画・準備・練習を行う。



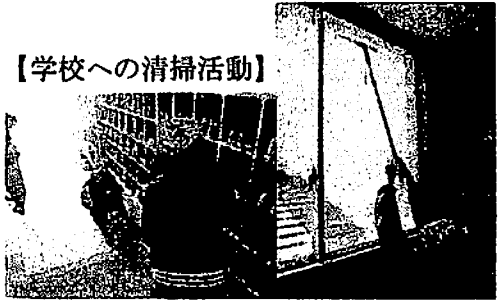
○プロジェクトを実行する。



【給食調理員さんへの感謝状】



【先生方へのブックカバー】



【学校への清掃活動】



【在校生へ】

【修学旅行のホテル・インストラクターさんへ】



この他にも、様々なプロジェクトを実行！

振り返り

〔単元設定の理由〕

日頃から、自己中心的で他者に思いやりのない言動が多いという実態から、自分とは異なる立場の人についての体験をしたり、講話を聴いたりすることで、「心を寄せる力」を育てたい。

〔目標〕

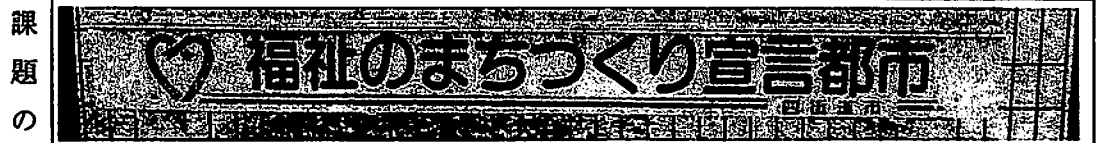
〈学び続ける力〉「福祉」について、自らの課題を設定し、必要な情報を集め、互いの考えを整理・分析したり、伝え合ったりしながら、課題を解決できる。

〈関わる力〉 課題の解決に向けて、友達や地域の方と協働的に関わることができる。

〈表す力〉 課題について、話し合いで意見を述べたり、ワークシートに書いたりして、適切に自分の考えを表現できる。

単元	過程	学習内容
----	----	------

第一次
福祉と四街道



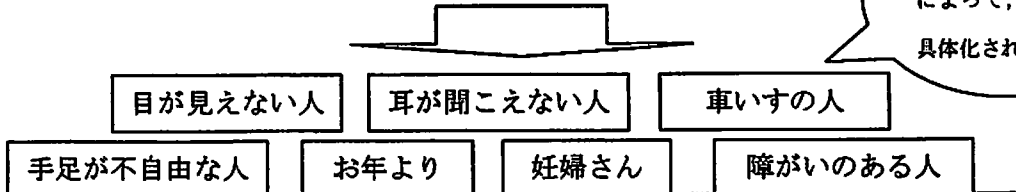
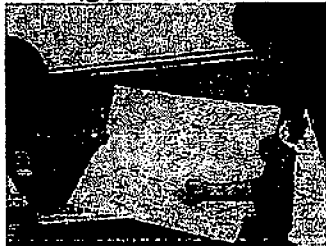
○「福祉」とは「みんなが幸せ」であること。(スライドショーの活用)

「助けが必要な人」とは、どのような人達だろうか。

○少人数グループによる「考えるための技法」『関連付ける』のために、
「思考ツール」『イメージマップ』の活用



○『イメージマップ』を使っでの意見の共有



「思考の可視化」
によって、対象が
具体化される。

「助けが必要な人」は、本当に「かわいそう」「大変そう」なのだろうか。
 その人達の気持ちを知るためには、どうすればよいか。

○話し合い、方法を模索する。

- ・体験（その人の立場になる）
- ・アンケート
- ・インタビュー
- ・調べる（インターネット・本）
- ・手紙

情報
の
収
集

車いすに乗ってみて、車いすに乗る人の気持ちを考えよう。

○四街道市社会福祉協議会の方の協力のもと、車いす体験を実施



相当の方とは1週間前に
事前打ち合わせを行い、
児童の実態、育てたい力
等について理解してい
ただき、実施した。

整
理
・
分
析

車いす体験で考えたことを、みんなでまとめよう。

○「考えるための技法」『比較・分類する』のために、

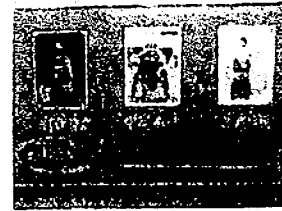
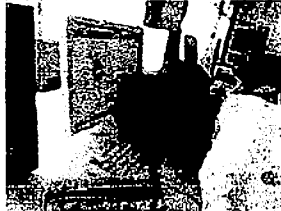
「思考ツール」『KJ法』を活用しての情報の共有・整理・分析



情
報
の
収
集

車いすについて、もっと深く調べよう。

○「整理・分析」をして、生まれてきた疑問・高まった興味のため、本や
インターネット等の調べ学習へ



〈今後の展望〉

○夏休みに調べてきた「情報」を「かたち」にして、まとめる。

○次の対象へ移るため、社会福祉協議会や保護者・地域住民との協働へ。

7 授業後の変容・結果

児童アンケート集計結果 ※肯定的意見がどれだけ増加したか。

調査対象 6年2組児童 30名

調査方法 紙面アンケート

項目	事前アンケート	事後アンケート
総合への興味・関心	80%	97%
家族への感謝の思い	93%	97%
地域への感謝の思い	63%	100%
①【学び続ける力】	56%	88%
②【関わる力】	76%	91%
③【表す力】	63%	81%
心を寄せる力 (①+②+③) ÷ 3	65%	87%

→資料編 資料⑤「実態調査児童アンケート」

児童の感想 ※抽出児童のみ記載

調査対象 6年2組児童

調査方法 児童ワークシート

「心を寄せる力」の高まり

- ・はじめは、「総合的な学習の時間」は4教科よりも楽だから、好きだと考えていたけど最後にやった「プロジェクト」は、心から楽しいと思ってやっていた。(児童 Y.K)
→【興味・関心】
- ・みんなで意見を出し合う時に、1枚のホワイトボードを使うだけで、みんなの意見が色々聞けるし、考えを重ねることができるのはうれしかった。またやりたいと思った。
(児童 A.A) →【課題の設定】【整理・分析】
- ・4教科とちがって、総合は特別な勉強だと思った。特に、みんなと話し合っ、「座標軸」の時に、よりよい方法を考えるところが好きだった。
(児童 T.A) →【整理・分析】【話す表現】
- ・前から、インターネットで調べたことをまとめたり、発表したりするのは楽しかった。でも、最後の総合「プロジェクト」はそれだけじゃなくて、卒業の前に、みんなでたくさん協力することができたと思う。(児童 K.Y) →【協働性】【他者理解】
- ・最初、給食の調理員さんや皆川さん(地域の方)がやってくれていることは、当たり前で気にしてなかった。でも、このプロジェクトをやっているうちに、いつもやってもらっていることは、当たり前じゃないんだと思った。
(児童 T.H) →【他者理解】【地域との関わり】

考察

児童の意識アンケートの結果から、吉岡小児童の課題であり、目標としていた「心を寄せる力」（学び続ける力・関わる力・表す力）が高まったことがわかる。特に伸びが大きかったのは、事前アンケートで一番低かった「学び続ける力」である。これは、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」（「まとめ・表現」）「粘り強い学習」といった、探究的な活動が中心となっているため、その学習過程をしっかりと身に付けることができたといえる。4つの手立てが結びついた成果だと考えられる。

また、児童がとても主体的であり、協働的な姿勢だったと感じる。その大きな要因として考えられるのは、やはり「卒業までもう少し」という卒業を控えた6年生独特の思いではないかと考えた。小学校6年間の締めくくりとして、児童の心に響き、「切実」な思いで総合に没頭していたように思う。そして、ほとんどの児童が、普段意識していない「お世話になっている」「支えられている」ということに改めて気づき、「感謝」の気持ちをもって卒業していったと感じる。

8 成果（○）と課題（▲）

- 総合的な学習の時間における「全体計画」を、新学習指導要領も見据えて改定したことで、今現在の学校・児童・地域の実態が把握でき、「育てたい力」が明確になった。これによって、指導者側は明確な意図をもって指導することができるようになった。
- 新しい形式の「年間指導計画」（単元配列表）を作成したことで、各教科・領域とのつながりが意識でき、見通しをもって指導ができるようになった。これにより、校内体制（『基盤』）を整えることにつながった。
- 「考えるための技法」を習得するために、「課題の設定」や「整理・分析」の場面で、「思考ツール」を活用することが、効果的であることが改めてわかった。
- 「教育資源」の協働（活用）による教育的効果が大きいことがわかった。このつながりをなくさないように、「教育資源リスト」を作成するようにした。
- ▲ 今回は、学級単体の実践がメインで終わってしまった。今後は、今回取り組んだ内容を、学校全体としてどのように広げていくかを考えていく必要がある。
- ▲ 「思考ツール」が、とても有効であることが再確認できたため、今後は総合だけでなく、他教科でも活用していけるよう連携していきたい。
- ▲ 「教育資源」の社会福祉協議会や地域の方と協力・連携する場合は、形式的な体験行事だけにならないように注意しなければならない。
- ▲ 平成32年度の新学習指導要領完全実施に向けて、現在の移行期間の内に、さらに学校の『基盤』を固めたり、職員間で共通理解を図ったりするなど備える必要がある。

～資料編～



資料① 「旧」総合的な学習の時間全体計画

資料② 「新」総合的な学習の時間全体計画



資料③ 年間指導計画（単元配列表）第6学年

資料④ 年間指導計画（単元配列表）第4学年

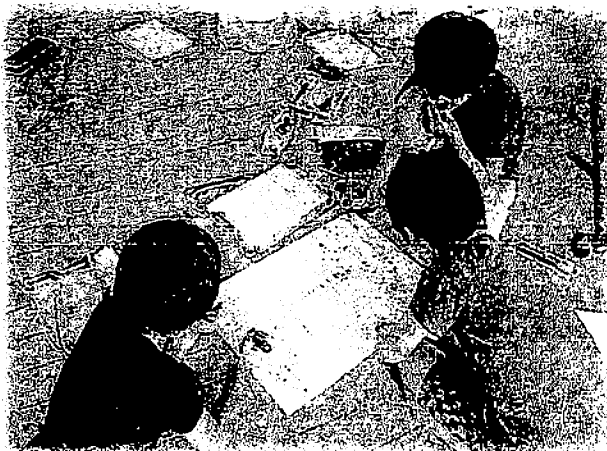
資料⑤ 実態調査児童アンケート



資料⑥ 実践で用いた思考ツール① ～座標軸～

資料⑦ 実践で用いた思考ツール② ～KJ法～

資料⑧ 実践で用いた思考ツール③ ～イメージマップ～



総合的な学習の時間 全体計画

四街道市立吉岡小学校

学校教育目標
確かな学ぶ力と思いやりの心を持ち、たくましく生きる児童の育成 【めざす児童像】 よ…よく考える子ども し…心身共に健康な子ども お…思いやりのある子ども か…感性の豊かな子ども

総合的な学習の時間目標
児童の興味・関心に基づき、探究的協同的に課題を解決していく中で、学んだことを生かそうとする態度や自己表現する力を育てる。

観 点			
課題を発見し、設定する力	必要な情報を収集し分析する力	目標を設定し課題解決に向け行動する力	他者と協同して課題を解決する力
学習方法	学習方法	自分自身への振り返り	他者や社会とのかかわり

各教科	○基礎・基本の定着を図り、その力を基に幅広く活用できる学力の育成 (国語) 相手や目的、意図に応じ、考えた事を的確に伝えたり、聞いたりする。 (社会) 身近な地域や我が国の生産や販売、公共施設、産業等に対し、見学や調査を通して理解を深めたり、愛情を持ったりする。 (生活) 具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考える。 (家庭) 実践的・体験的活動を通して、近隣の人々との生活や自分の家庭生活について考える。
道徳	(自分自身に関すること) 善悪の判断を適切にし、より高い目標を持って努力しようとする。 (他の人とかかわりに関すること) 日常生活に必要な礼儀やマナーを身につけ、相手の立場に立って親切にしようとする。 (集団や社会とかかわりに関すること) 働くことの意義を知り、公德心を持って社会に貢献しようとする。
特別活動	(学級活動) ピアサポートを中心として、豊かな人間関係づくりを図る。係活動では、責任を果たすことの大切さと素晴らしさを体験する。 (児童会活動) 働くことの意義を理解するとともに、よりよい学校づくりへの貢献意識を高める。 (学校行事) 勤労生産・奉仕的行事を通して、社会奉仕の精神を培う。遠足・集団宿泊的行事では、見聞を広め、様々な分野への興味・関心を高める。

吉岡っ子 総合的な学習の時間 全体計画

平成30年度 四街道市立吉岡小学校

【児童の実態】

- ・明るく、人懐っこい児童が多い。
- ・積極的に外遊びをする児童も多く見られる。
- ・コミュニケーション能力が低く、人との関わり方が苦手な児童が多い。
- ・主体的な姿勢・態度が見られることが少ない。

【地域の実態】

- ・四街道市の最南端に位置し、千葉市に隣接している。生活圏は千葉市を中心としている家庭が多い。
- ・新興住宅地であり、若い世代の保護者が多い。
- ・地域の取り組み(祭り等)の歴史が浅い。

【学校教育目標】

確かな学ぶ力と思いやりの心を持ち、
たくましく生きる児童の育成

よ … よく考える子ども
し … 心身ともに健康な子ども
お … 思いやりのある子ども
か … 感性の豊かな子ども

【保護者の願い】

- ・確かな学力、豊かな人間性、健やかな体を育ててほしい。
- ・ルールやマナーをしっかりと守って欲しい。
- ・しっかりとした学習習慣を身につけてほしい。
- ・思いやりのある子に育ててほしい。

【吉岡っ子(総合的な学習の時間)の目標】

・探究的な見方・考え方を働かせ、身の回りの人・もの・ことについての総合的な学習を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)身の回りの人・もの・ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
- (2)身の回りの人・もの・ことの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3)身の回りの人・もの・ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

【地域の願い】

- ・挨拶が活発にできるようになってほしい。
- ・社会のルール、マナー、モラルをしっかりと守るようになってほしい。
- ・地域に愛着をもってほしい。
- ・思いやりのある子どもに育ててほしい。

【目標を実現するにふさわしい研究課題】

三つの課題	探究課題
福祉	広げよう あたたかい心(4年)
食	レッツ・トライス(5年)
伝統文化	吉岡伝統の和太鼓(6年)
地域	吉岡めぐり(3年)
キャリア	お仕事体験(6年)
ものづくり	おもちゃ研究所(3年)

【研究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力】

心を寄せる力	学び続ける力	様々な事象に関わり、その中から課題を見つける力。また、自らの課題を粘り強く追究し、主体的に解決することができる力。
	関わる力	問題解決のために、友達や地域の方と協働的に関わろうとする態度。または、それに必要不可欠なコミュニケーション能力。
	表す力	自己の考えを話したり、書いたりして、適切に思いを表現することができる力。また、つくった物を、他者へと発信する(伝える)力。

【学習活動】

- (3年) 吉岡めぐり [地域] おもちゃ研究所 [ものづくり]
- (4年) 広げようあたたかい心 [福祉]
- (5年) レッツ・トライス [食]
- (6年) 吉岡伝統の和太鼓 [伝統文化]

【指導方法】

- ・児童の課題意識を連続発展させる支援
- ・諸感覚を駆使の重視
- ・協働的な学習活動の充実
- ・対話を中心とした個別支援の徹底

【学習の評価】

- ・観点別学習状況を把握するための評価基準の設定
- ・個人内評価の重視
- ・指導と評価の一体化の重視
- ・学期末、学年末における指導計画の評価と改善

【指導体制】

- ・地域教育力の人材バンクへの登録と効果的運用
- ・学年会における「実践」と「情報」の交流
- ・担任以外の教職員による支援体制の樹立

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合的な学習の時間 (55)	広げよう あたたかい心【福祉】											
	[課題設定]			[情報収集]				[整理・分析]			[まとめ]	
国語 (215)	言葉と声あわせ(2) くらべて見よう(3) 想像を広げて日記に書こう(18)	わかったとを伝えよう(5)	新聞によって国語文を調べよう(11) 日本語のびびる(5)	話の組み立てを考えて発表しよう(10) 日本語のびびる(5) 物語の冒険を感動して音読したりえんじたりしよう(5)	よりよい話し合いのしかたを考えよう(18)	話を友達に伝えよう(17) 興味をもったことをしようかしよう(12)	みんなして何かを作ろう(15) テーマを決めて本をしようかしよう(17)	日本の文化に思いよう(10)	話をしよう(6) 「疑問」について考えよう(7) ポスターを使って発表しよう(16)			話子がわかるように言葉を調べよう(11) 音読がきをしよう(11)
書写 (30)	はじめの学習(2)	筆順と書写の方向(2) 筆順と字の形(2) こう書の学習(1)		点線の読み方・書き方(2) 漢字の書き方(1)	ひらがなの書き方(4)	文字の組み立て(6)	トイあんじチャレンジ(2)	書き始め(2) こう書の学習(1)			学習のまとめ(5)	
社会 (90)	火事からくらしを守る(9)	地震からくらしを守る(9) 事故や事件からくらしを守る(9)		水はどこから(11)		ごみのしよりと利用(13) 谷に囲まれた台地に水を引く(7)		県の広がり(10) 特色ある地いきと人々のくらし(21) 世界とつながるわたしたちの県(1)				
算数 (175)	グラフや表の角の大きさの表し方を使って調べよう(10)	角の大きさの表し方考えよう(11)	わり算のしかたを考えよう(9)	四角形を調べよう(17) そうば(2)	1冊より大きいわり算のわり算を考えよう(7)	わり算のわり算を考えよう(16) およその量の表し方考えよう(9) わり算のしくみを調べよう(9)	およその量の表し方考えよう(12) およその量の表し方考えよう(11) どのようにまわらばいい(6)	およその量の表し方考えよう(16)	およその量の表し方考えよう(10)	およその量の表し方考えよう(10)	およその量の表し方考えよう(8)	
理科 (105)	1季節と生き物(春)(8)	2天気と気温(7) 3電池のはたらき(10)	4とじこめと空気や水(6) 5季節と生き物(夏)(5) 6星や月(1)星の明るさや色(4)	7季節と生き物(夏)(3) 8わたしたちの体と運動(8)	97月や星(2)月の動き(7) 10季節と生き物(秋)(4)	11私たちの理科室(1) 12ものの温度と体積(8)	13ものあたたま(8) 14月の動き(3)星の動き(6)	1510月や星(3)星の動き(6) 16季節と生き物(冬)(8)	1711すがたをかえる水(8)	1812自然の中の水(6)		
音楽 (60)	ひびけ歌声(4) ヒッパポウと あんなのうた(4) スキップアップ(4)		ひょうしとせんりつ(2)	せんりつと温色(4) かけ合いと頂なり(2) ヒッパポウと あんなのうた(3)		日本のリズム・世界のリズム(7) 音のスケッチ(3)	えんそうのくふう(4) おぼえきき名人(2)	(音のスケッチ)(3) いろはの歌や童謡(3)			音楽のききどころ(3) おぼえきき名人(2)	
図工 (60)	絵の具で遊んで(2~6) リズムにのって(2)	どこにどう飾ろう(4~6)	水々をじつとみつめて(4~6)	みんなどんどんむすんで(1) カーフでわらわら(2)	ハックハック(4~6) いいねねねつけてかこんで(2)	まほうの力をもち時計(4~6)	作って使って楽しんで(4~6) 目をとけてくるふしぎな(4~6) ぞうぞうにつくこと(2)	だんボール、切って、つないで(2)	いいねねねから(4) アップカーフ(2~6)		ゆめいろらんぶ(6)	
体育 (105)	短距離走 リレー ストレッチ	走・跳の運動 表現・集団行動	図形用の体と心 鉄棒運動 水泳		ボートボール ハードル走	マット運動 鉄棒	持久走 跳び箱 キックベース 風車正しい生活をしよう	なわとび ラインサッカー 走り高跳び			図形用の体と心 リズムダンス	
学活 (35)	つくろう話話 当番活動の役割 学級新聞を作ろう なかよし紙を作よう	運動会について話し合おう	「命を大切にしよう」をテーマにしたキャンペーンについて 学級や学校の問題点について	学級集会をしよう 1学期を振り返ろう クラブ活動について	つくろう話話 学級新聞を作ろう 運動会での正しい行動を考えよう	図書室での過ごし方を確認しよう 学級や学校の問題点について 「いじめ防止キャンペーン」について 「ふゆわらひ」	学級や学校の問題点 学級集会をしよう 2学期を振り返ろう 冬休みの過ごし方	つくろう話話 学級新聞を作ろう 協力してそうじしよう	6年生を送る会の準備をしよう 1年間を振り返ろう もうすぐ5年生 図書室の過ごし方			
英語 (35)	あいさつ、自己紹介 教室の会話		日にちと時刻 天気・季節		季節・スポーツ 好きな食べ物・欲しい食べ物	教科 教室の名前		できること・できないこと 家族と職業			ペットと動物	

実態調査児童アンケート

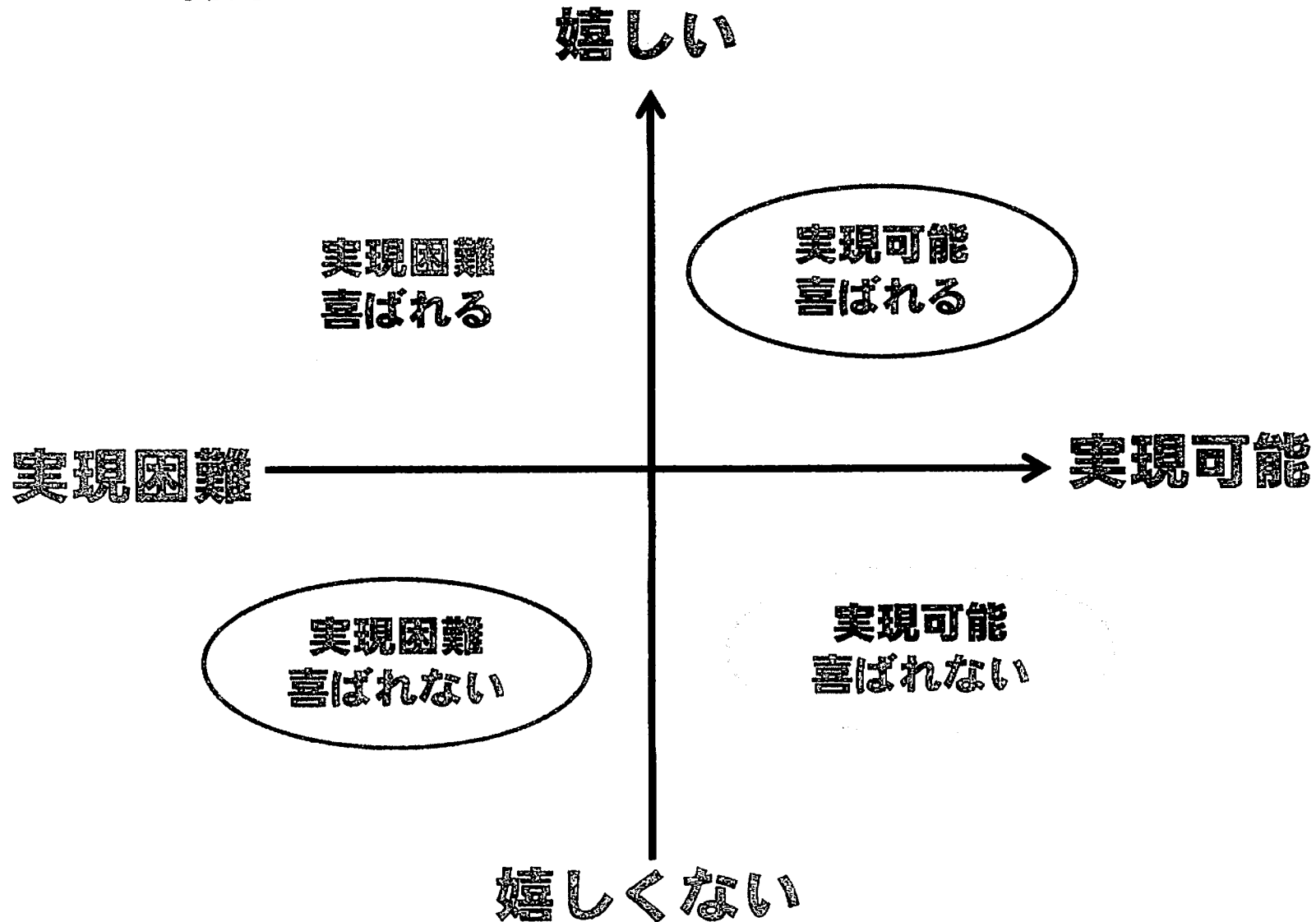
調査対象 6年2組児童 計30名

調査方法 紙面アンケート

	質問項目	回答	事前(名)	事後(名)
興味 ・ 関心	1. 総合的な学習の時間は好きですか。	とても好き	9	23
		まあ好き	15	6
		あまり好きではない	4	1
		好きではない	2	0
学 び 続 け る 力	2. 身の回りのことに目を向けて、課題を見つけることは得意ですか。	とても得意である	4	10
		まあ得意である	11	12
		あまり得意ではない	8	6
		苦手である	7	2
	3. 課題についての必要な情報を集めることは得意ですか。	とても得意である	12	18
		まあ得意である	9	10
		あまり得意ではない	7	2
		苦手である	2	0
	4. 調べたことを整理することは得意ですか。	とても得意である	3	14
		まあ得意である	10	13
		あまり得意ではない	12	3
		苦手である	5	0
	5. 途中であきらめず、学習に粘り強く取り組むことができますか。	よくできる	10	16
		まあできる	8	13
		あまりできていない	7	1
		できていない	5	0
関 わ る 力	6. 友達と協力して問題解決することは得意ですか。	とても得意である	19	23
		まあ得意である	7	6
		あまり得意ではない	3	1
		苦手である	1	0
	7. 相手の気持ちや意見を考えて行動できていますか。	よくできる	10	15
		まあできる	12	12
		あまりできていない	8	3
		できていない	0	0
	8. 地域の人とコミュニケーションをとることは得意ですか。	とても得意である	7	12
		まあ得意である	13	14
		あまり得意ではない	7	2
		苦手である	3	2

表 す 力	9. わかったことや考えたことを、わかりやすく話すことは得意ですか。	とても得意である	8	10
		まあ得意である	9	11
		あまり得意ではない	10	8
		苦手である	3	1
	10. わかったことや考えたことを、工夫しながら書くことは得意ですか。	とても得意である	9	15
		まあ得意である	15	13
		あまり得意ではない	5	2
		苦手である	1	0
	11. 調べてまとめたことを、みんなの前で発表することは得意ですか。	とても得意である	6	10
		まあ得意である	10	14
		あまり得意ではない	9	5
		苦手である	5	1
感 謝 の 気 持 ち	12. 家族の人に「お世話になったな」と思うことはありますか。	とても思う	18	27
		まあ思う	10	3
		あまり思わない	2	0
		思わない	0	0
	13. 地域の人に「お世話になったな」と思うことはありますか。	とても思う	8	26
		まあ思う	11	3
		あまり思わない	7	1
		思わない	4	0
	14. 今までの学校生活を振り返り、どのような人にお世話になりましたか。 (自由記述)	家族(親・兄弟)	28	30
		先生方	27	29
		地域の方	12	29
		給食調理員	4	26
		在校生	3	20
		カメラマン	5	29
		太鼓指導員	2	28
		米作り指導の方	1	23
		修学旅行のホテルの方	1	26
		卒業生(先輩)	1	27

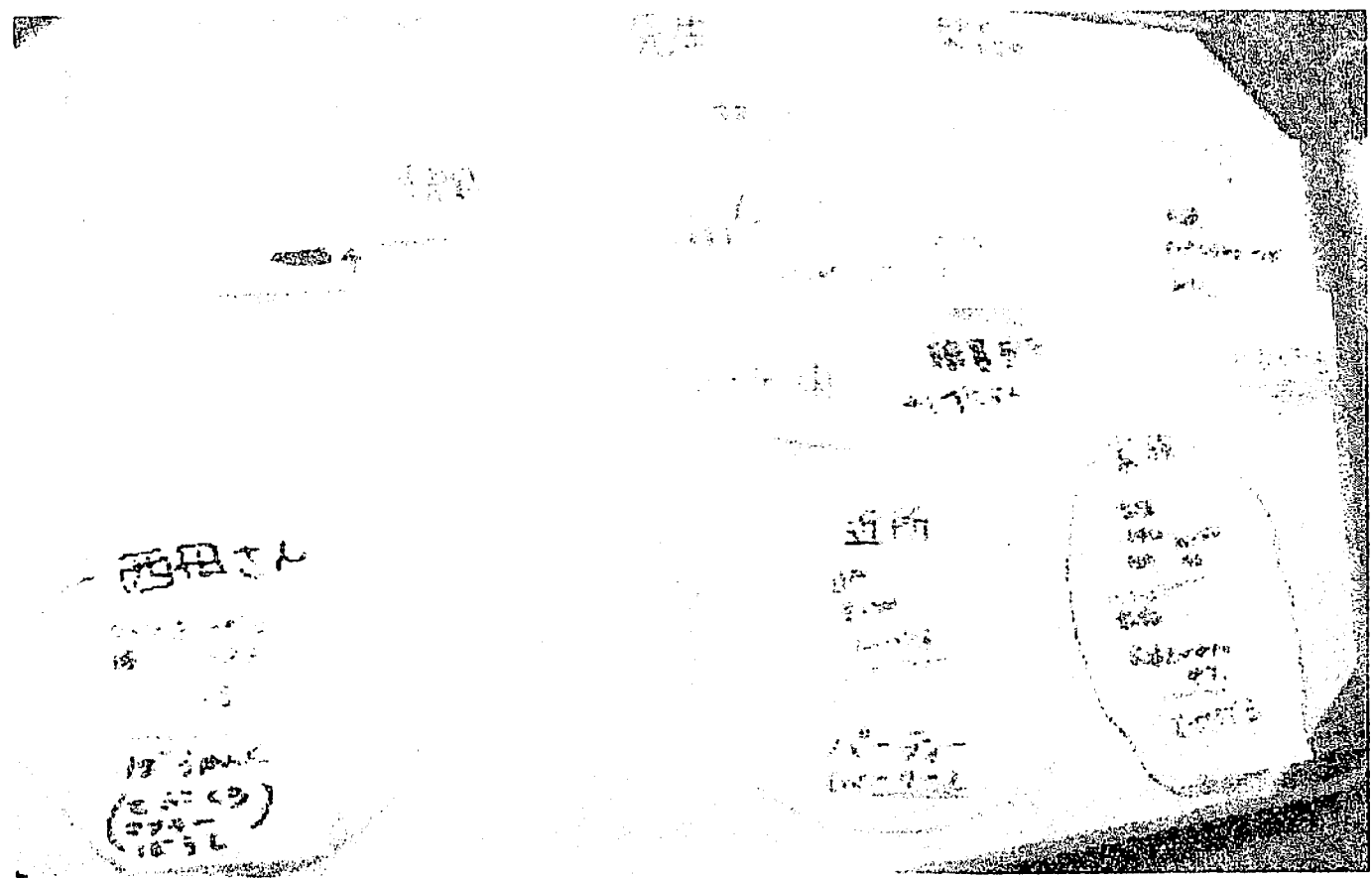
実践で用いた思考ツール ～座標軸～



実践で用いた思考ツール

～KJ法～

個人で考えたことを、全体で
分類・整理する思考ツール



実践で用いた思考ツール ～イメージマップ～

アイデアを出す
広げる
関係づける
関連づける
ための思考ツール

